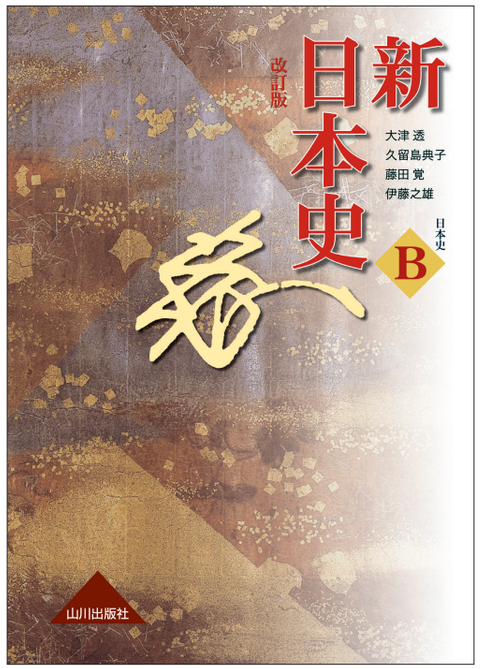
新日本史 改訂版

日B315



B5変型判・390頁　予価844円

［著作者］
大津　透
久留島典子
藤田　覚
伊藤之雄

最新の研究成果を反映と斬新な切り口と詳細な叙述

従来の斬新な切り口はそのままに、**出来事の因果関係を重視した論理的叙述**をおこなうとともに、必要最小限の脚注を設けてあります。

Message

『新日本史』執筆代表者からのメッセージ

久留島典子
（くるしま　のりこ）
東京大学教授

東日本大震災で示された地球規模の長い時間の流れと，人間の営みという短い時間の繰り返し，両者の冷厳な接点を実感した現在，歴史はより身近なものとなったのではないでしょうか。過去の事実や人々の知恵から何を学ぶかが，将来を予測し，未来をより良くするために重要だと気付いた人も多いでしょう。

また，グローバル化し，文化面でも一元化が進む現在，様々な地域の異なる歴史を学ぶことが，多元的で多様な文化の存在を理解するために役立ちます。日本史を学ぶ意味はそうした点にもあるでしょう。

『新日本史』では，歴史研究の最新の成果を生かしながら，各時代を一人の執筆者が担当するという特徴をさらに生かし，それぞれ個性的な叙述のなかに，歴史への興味を引き出すための様々な工夫をこらしています。この教科書が，知識の獲得だけではなく，出来事の背景や連関などを考える歴史的思考を育てるために活用されることを願っています。

4部構成

「原始・古代」「中世」「近世」「近代・現代」の**4部構成**で、**各時代1人**の執筆者が担当し、各時代の全体の流れがつかみやすい構成になっています。

目次

まえがき ……
歴史と資料　正倉院と古代の歴史 …… 6
歴史の解釈　絵画資料から考える …… 145
歴史の説明　田沼意次の歴史的な評価 …… 196
歴史の論述　歴史の探究方法と表現活動 …… 362

第1部 原始・古代 9

1章 日本文化のあけぼの
1 文化の始まり …… 10
2 農耕社会の形成 …… 16
3 古墳とヤマト政権 …… 22

2章 古代国家の形成
1 ヤマト政権の支配機構 …… 29
2 推古朝と飛鳥文化 …… 32
3 律令国家への道 …… 37
4 律令国家の構造 …… 42

3章 古代国家の展開
1 天平時代 …… 49
2 天平文化 …… 54
3 律令国家の転換 …… 58

4章 宮廷貴族社会の成立
1 摂関政治 …… 65
2 国司の支配と社会の変化 …… 68
3 国風文化 …… 73

第2部 中世 79

5章 武家政権の成立
1 院政の成立 …… 80
2 中世社会への胎動 …… 82
3 鎌倉幕府 …… 88
4 執権政治 …… 91
5 鎌倉時代の社会と文化 …… 95
6 蒙古襲来と幕府の衰退 …… 107

6章 中世社会の展開
1 室町幕府の成立と南北朝の内乱 …… 111
2 室町幕府の支配と守護 …… 114
3 東アジア世界との交流 …… 122
4 民衆の台頭と室町時代の文化 …… 128
5 戦国動乱と諸地域 …… 136

年間指導計画例

4月 16 ←（歴史と資料含む）
5月 16
6月 16
7月 7 ←（歴史の解釈含む）

日B315 新日本史 改訂版

第3部 近世 149

7章 幕藩体制の確立
1 織豊政権 …… 150
2 江戸時代の政治の仕組み …… 158
3 江戸時代の社会の仕組み …… 165
4 江戸時代初期の対外関係 …… 170

8章 幕藩体制の展開
1 幕政の安定 …… 175
2 江戸時代の経済の仕組みと発展 …… 179
3 元禄文化 …… 185
4 幕政の展開 …… 189

9章 幕藩体制の動揺
1 社会変容と対外危機 …… 199
2 化政文化 …… 209
3 内憂外患と改革 …… 213

第4部 近代・現代 219

10章 近代国家の成立
1 開国と幕末の動乱 …… 220
2 明治維新と文明開化 …… 231

11章 立憲国家の成立と日清・日露戦争
1 自由民権運動と大日本帝国憲法 …… 243
2 初期議会と条約改正 …… 252
3 列強の中国分割の始まりと日露戦争 …… 258
4 日露戦争後の政治と社会 …… 264
5 近代産業の定着 …… 270
6 近代文化 …… 275

12章 大正デモクラシーと政党政治
1 第一次世界大戦と大陸進出 …… 284
2 大正デモクラシーとワシントン体制 …… 288
3 政党政治の展開 …… 298
4 市民文化の時代 …… 305

13章 第二次世界大戦と日本
1 中国問題と軍部の政治的台頭 …… 309
2 日中全面戦争と第二次世界大戦 …… 314
3 太平洋戦争 …… 320

14章 占領と国際復帰
1 戦後改革 …… 326
2 冷戦とサンフランシスコ講和会議 …… 333

15章 55年体制と高度経済成長
1 55年体制の成立 …… 339
2 高度経済成長と保守政権の定着 …… 341
3 経済大国日本 …… 348

16章 冷戦の終了と55年体制の崩壊
1 新しい秩序形成への模索 …… 355
2 現代文化と日本の進路 …… 360

9月 13
10月 15 ←(歴史の説明含む)
11月 16
12月 9
1月 11
2月 13
3月 1 ←(歴史の論述)

合計時数 133

詳しいシラバス案はホームページをご覧下さい。

コラム
天皇号はいつ成立したか …… 34
郡評論争 …… 39
長屋王邸の発掘 …… 51
貴族の日記 …… 67
災害と中世の人びと …… 119
中世の子どもと老人 …… 137
銀と16世紀の日本 …… 144
河原の興行 …… 158
談合 …… 167
『阿部一族』と殉死 …… 177
拾得物(拾い物) …… 195
義民と名代官 …… 200
受験参考書 …… 204
裸体と混浴 …… 239
伊藤博文とシュタイン …… 248
植民地統治下の朝鮮 …… 293
第一次と第二次の護憲運動の比較 …… 299
張作霖爆殺事件と昭和天皇 …… 301
マッカーサーと原爆 …… 337

日本史年表 …… 365
索引 …… 373
古代の行政区画 …… 表見返し
政党・政派の変遷 …… 裏見返し

19のコラムを掲載しています。

凡例
1. 年は年代を知るのに便利なため西暦を主とし，日本の年号は( )の中に入れた。明治5年までは日本暦と西暦とは1カ月前後の違いがあるが，年月はすべて日本暦をもとにし，西暦に換算しなかった。たとえば，天正14年12月1日は，西暦では1587年1月9日であるが，1586(天正14)年12月とした。改元のあった年は，その年の初めから新しい年号とした。たとえば，慶応4年は9月8日に改元して明治元年となったのであるが，この年のことはすべて1868(明治元)年とした。
2. 史料引用はできるだけ必要な部分にとどめたが，その際も前略・後略は特別には記さなかった。また，読みやすく書き改めたところもある。法令などの史料には，適宜，第何条にあたるかを示す数字をつけた。
3. 挿入した図版には原則として出所・原作者・所蔵者を明示したが，著者作成の図版および出所・所蔵不明のものは省略した。

改訂版の「歴史と資料」では，新たに正倉院の史資料を題材にしました。そのほか「歴史の解釈」では絵画資料，「歴史の説明」では田沼政治を題材にしています。「歴史の論述」では，自ら課題を設定し，史資料を集めて読み解き，論述することをうながします。

主題 学習

歴史と資料

正倉院と古代の歴史

歴史は資料にもとづいて叙述される。奈良時代の歴史は，８世紀後半から編纂が始められ８世紀末の桓武天皇の時に完成した勅撰史書の『続日本紀』の記述が基本となるが，それ以外に政府がつくった公文書や当時のさまざまな物品がたくさん伝来していて，奈良時代の支配のあり方や天平文化をうかがうことができる。奈良時代を考えるうえで質量ともにもっとも重要なのは，正倉院の宝物である。

(→p.54)
(→p.55)

正倉院宝庫は，もと東大寺正倉院の中にあった巨大な校倉造の建物で，勅封により厳重に管理されてきた。檜造・寄棟造・本瓦葺で，高さ14メートル，南北33メートル，東西9.3メートルの高床式の倉庫である。北から順に北倉・中倉・南倉にわかれ，北倉・南倉は三角材の校木を組み上げた校倉形式である。

宝物の中に奈良時代の献納目録が残され，そこに正倉院宝物の歴史が記されていることが特色である。756(天平勝宝８)年６月21日光明皇太后が聖武上皇の七七(四十九日)忌に，その遺愛の品600点余りを東大寺大仏に奉献した。その目録を「国

(→p.52)

家珍宝帳」といい，その光明皇太后による願文には，

> 故に今，先帝陛下の奉為に，国家の珍宝・種々翫好及び御帯・牙笏・弓箭・刀剣，兼ねては書法・楽器等を捨して東大寺に入れ，盧舎那仏及び諸仏菩薩一切賢聖を供養せむ。

とある。夫の身の回りの品々は昔を思い出させ，目に触れると泣き崩れてしまうと光明は述べている。このほか薬や屏風，王羲之などの書も献納され，北倉にはこうした聖武と光明ゆかりの「国家の珍宝」がおさめられている。そこには輸入された宝物も多く，螺鈿紫檀五絃琵琶がインドに起源をもつ五絃琵琶の世界唯一の遺品であるなど，東アジアの当時の最高水準の工芸品を伝えている。象牙・犀角・瑇瑁・紫檀・ガラス・琥珀・ラピスラズリなど，国内で産出されない西

国家珍宝帳(末尾)　全面に「天皇御璽」の朱印が捺され，光明皇太后の献辞につづき藤原仲麻呂の署名がみえる。(正倉院宝物)

正倉院宝庫

平螺鈿背八角鏡　径27.4cm，重さ2150g(正倉院宝物)

紺瑠璃杯　口径9.5cm，高さ11.2cm(正倉院宝物)

螺鈿紫壇五絃琵琶　長さ108.1cm，幅30.9cm(正倉院宝物)

方や南方の貴重な材料を用いて，高度な技術で製作されている。国家珍宝帳に載せられる品々は，伝来の由緒が確認でき，しかも奈良時代の名称がわかるので，世界的にも貴重な例である。

遣唐使が唐の皇帝から賜った品が含まれている可能性があり，樹下美人図や騎馬狩猟図などのように西域に起源をもつ文様も多い。しかし鳥毛立女屏風のように中国産のようにみえるが調査によって国産であることがわかったものもあり，また唐からでなく新羅を通じてもたらされたものも多い。天平文化は，唐の長安・洛陽を中心とする東アジア文化圏の一部をなしており，そこに西方の文化がシルク＝ロードを通じて伝わっていたのである。

(→p.49)

東大寺大仏が完成して開眼供養がおこなわれたのはその４年前のことで，『続日本紀』天平勝宝４(752)年４月９日条には

> 盧舎那大仏の像成りて，始めて開眼す。是の日，東大寺に行幸したまふ。天皇親ら文武百官を率いて，設斎大会したまふ。その儀，一ら元日に同じ。……雅楽寮と諸寺との種々の音楽，並びに咸く来り集まる。……東西より声を発し，庭を分けて奏す。所作の奇偉，勝げて記すべからず。仏法東に帰りてより，斎会の儀，嘗て此の如く盛なるは有らず。

本文は因果関係を重視して叙述しています。

詳細な叙述と見やすい紙面

5章 武家政権の成立

1 院政の成立

後三条天皇と国政改革

1068(治暦4)年，藤原氏を生母としない**後三条天皇**(位1068~72)が即位し，藤原頼通は関白を弟の教通(996~1075)にゆずって，宇治に引退した。20年余りを皇太子として過ごし，すでに壮年だった後三条天皇は，大江匡房(→p.68)らの人材を登用し，のちの院政を支える人材を見出した。

天皇がまず取り組んだのは内裏などの造営で，ついで1069(延久元)年に**延久の荘園整理令**を出した。11世紀半ばに何度か荘園整理令は出されていたが，今回は従来にない徹底した調査を命じ，整理の対象となる新立荘園以外でも，券契(証拠文書)の明らかでない国務のさまたげとなるものは停止とした。さらに，その証拠文書の審査をおこなうために，中央に**記録荘園券契所**(記録所)を設けて，基準にあわない荘園を停止した。また公定枡である**宣旨枡**を制定したり，皇室の財政を強化するなど，国政の改革をめざした。

国司は，公領を拡大するために荘園整理を求めたが，一方で公認した荘園については，荘園・公領の範囲を画定したうえで，荘公の別なくすべての土地に税(役)を課そうとし，後三条天皇は内裏造営のための臨時雑役である造内裏役を**一国平均役**として公認した。これは荘園公領制に対応する新たな税であり，この結果，荘園の領域紛争や税免除が，それまでの国司段階ではなく，中央の陣定や記録所で争われることになった。荘園整理は，摂関家領荘園を削減することだけではなく，中央の支配を拡大させることも目的だったのである。

記録荘園券契所の設置

コノ後三条位ノ御時、……延久ノ記録所トテハジメテヲカレタリケルハ、諸国七道ノ所領ノ宣旨❶・官符❷モナクテ公田ヲカスムル❸事、一天四海ノ巨害ナリトキコシメシツメテ❹アリケルハ、スナハチ宇治殿ノ時、一ノ所ノ御領❺御領トノミ云テ、庄園諸国ニミチテ受領ノツトメタヘガタシナド云ヲ、キコシメシモチタリケル❻ニコソ。……

（『愚管抄』）

❶天皇の命令を伝える文書をいう。❷太政官からくだす文書のこと。❸横領する。❹「ツメテ」は「詰めて」である。従ってずっと聞いてきての意。❺「一ノ所」とは「摂関家」のことで，ここでは摂関家領の意。❻聞き入れ，用いられた。

試験などでもよく出題される約70の史料を掲載しています。

白河院政の評価

禅定法王(白河上皇)は、……後三条院崩後、天下の政をとること五十七年、在位十四年、位を避るの後四十三年、意に任せ、法に拘らず、除目・叙位❶を行ひ給ふ。古今未だあらず。……向後またありがたし。威四海に満ち、天下帰服す。幼主三代の政をとり❷、斎王六人の親となる。桓武より以来、絶えて例なし。聖明の君、長久の主と謂ふべきなり。但し理非決断❸、賞罰分明❹、愛悪掲焉❺、貧富顕然なり。男女の殊寵多きにより❻、已に天下の品秩破るゝなり。よりて上下衆人、心力に勝えざるか。

（『中右記』大治四(一一二九)年七月七日）

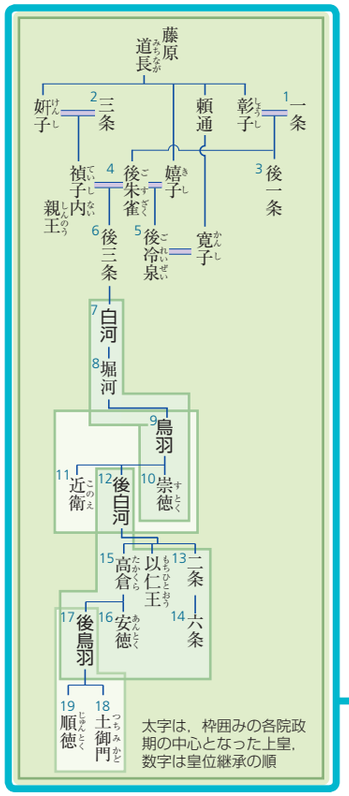
❶官位の人事。❷堀河・鳥羽・崇徳天皇の時期の治世。❸判断は果断であり。❹賞と罰とをはっきりとおこなう。❺いつくしみと憎しみとが著しい。❻男女の近臣を優遇する。

白河院政と鳥羽院政

白河天皇(位1072~86)は，後三条天皇から皇位をゆずられたのち，十数年にわたって親政をおこなったが，1086(応徳3)年，にわかに8歳の堀河天皇(位1086~1107)に譲位すると，上皇となって御所(**院**)に**院庁**を開き，天皇の後見として政治の実権を握って，**院政**を始めた❶。院政は，皇位継承権を握ってみずからの子孫に皇位を伝えるところから始まり，摂関から皇位継承の主導権を奪った。1107(嘉承2)年に堀河天皇が死去すると，白河上皇は本格的な院政を始めた。白河上皇が死去すると，鳥羽上皇(院政1129~56)が院政を保元の乱の直前まで続けた。

院庁の役人である院司には，中・下級貴族や国司層を取り込み，院の御所には北面の武士として武士団を組織した。政治の中心は依然として太政官であったが，公卿の会議を**院御所**で開き，院の影響がおよぶようにさせ，また叙位・除目(→p.66)への介入により人事権を行使した。

上皇の側近で院近臣と呼ばれる国司層や后妃・乳母の一族は，上皇の人事権により豊かな国の国司に任じられ，さらに国司の任期延長(**延任**)や再任(**重任**)と引きかえに寺院や内裏の造営を請け負わせることがおこなわれ(これを**成功**という)，院近臣により国司の役職が独占された。彼らは中央政府に税物を貢納しないことが



院政関係略系図

本文を理解しやすくする地図や系図などの図版を掲載しています。

❶後三条天皇に，院政をおこなう意思があったかは不明である。

注は必要最小限にとどめました。

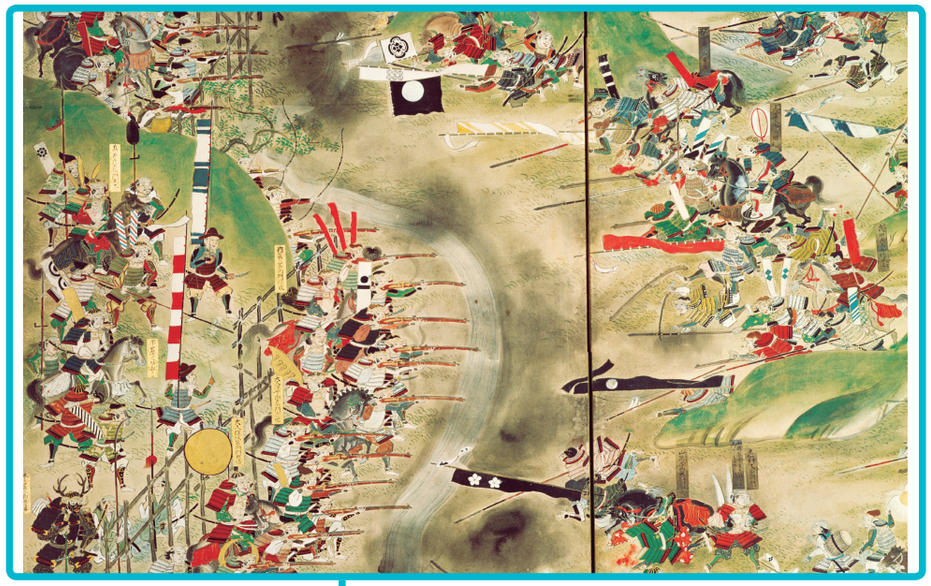
7章 幕藩体制の確立

1 織豊政権

織田信長の上京

戦国大名の中で，武力による全国統一を実行に移そうとしたのが**織田信長**（1534～82）である。信長は尾張守護代家の庶流の家に生まれ，尾張を統一したあと，1560（永禄３）年には桶狭間の戦いで**今川義元**（1519～60）を討ち，徳川家康（→p.158）と同盟を結んでさらに西進した。そして，1568（永禄11）年，前将軍足利義輝（1536～65）の弟**足利義昭**（1537～97）を将軍に立てて入京を果たした。しかし，近江北部に拠点をおく浅井氏が越前の朝倉氏と結び，さらに六角氏・本願寺・延暦寺が呼応するなどの動きがあり，これら反信長勢力との戦いは続いた。

1570（元亀元）年，信長は浅井・朝倉両氏を姉川の戦いで破り，翌年には**延暦寺を焼打ち**にした。信長は1573（天正元）年，みずからが将軍に擁立した足利義昭を追放し，ここに室町幕府を滅ぼした。さらに1575（天正３）年，武田信玄の死後，武田家を継いだ勝頼（1546～82）を三河の長篠に破った（長篠合戦）。



鉄砲隊の活躍（『長篠合戦図屏風』）　長篠合戦において，織田・徳川の連合軍は，図の右から攻撃する武田軍を破ったが，この戦いでは鉄砲隊も威力を発揮したといわれる。（徳川美術館蔵）

写真は大きくレイアウトしました。

ようやく安定を得た信長は，近江安土に広壮な城の造営を始め，その城下町には自由な売買を保障する**楽市令**（→p.139）を出している。足利義昭に呼応した中国地方の毛利軍と戦争は続いていたが，1574（天正２）年には伊勢長島の一向一揆を滅ぼし，1580（天正８）年になると，大坂石山に毛利軍の援助を得て籠城していた本願寺顕如（光佐）（1543～92）と和睦し，長く続いた一向一揆との激しい戦い（石山戦争）にも決着をつけた。

楽市令

一　定　安土山下町中❶

一　当所中楽市として仰せ付けらるるの上は，諸座・諸役・諸公事等，ことごとく免許の事❷。

一　普請免除の事。

一　分国中徳政之を行うといえども，当所中免除の事❸。

（近江八幡市共有文書）

❶一五七七（天正五）年六月，織田信長が安土城下町に出した楽市令で一三条よりなる。❷この城下町を楽市にすることにしたので，城下町は楽座（無座）で，住民のいっさいの税は免除となる。❸徳政令が出されても，この城下町の町人の債権は破棄されない。

一方，同1580年には大和国内の諸城の破却を命じ，興福寺などから所領の書上げを報告させて（**指出検地**），支配を強めていった。信長は，伊勢長島の一向一揆の攻撃や延暦寺の焼打ちにみられるように，仏教勢力を自己の支配権をおびやかす存在と考え，きびしく弾圧した。また浄土宗と法華宗に安土で宗論（教義論争）をさせ，その勝敗をみずからが決定するなど，宗教をより高い位置から統制しようとした。しかし，キリスト教に対しては，仏教に対抗する意味から好意的であった。

秀吉の登場

こうして，着々と政権の基盤を固めていった信長だが，1582（天正10）年６月，家臣の明智光秀（1528?～82）に攻められ，京都の本能寺で自刃した。毛利軍との合戦から急いで戻った有力家臣の一人**羽柴秀吉**（1537～98）は，山崎の合戦ですぐに光秀を討ち取り，翌年には柴田勝家（?～1583）を近江賤ヶ岳に破り，信長の後継者としての地位を固めた。この年から３年がかりで，大坂城の造営も始めている。その後，秀吉は1584（天正12）年に，信長の子織田信雄（のぶお(のぶかつ)）（1558～1630）・徳川家康の連合軍と小牧・長久手で対戦し，かなり苦戦したが和睦した。1585（天正13）年春には，紀伊根来・雑賀の一揆を平定し，四国の戦国大名長宗我部氏も降伏させた。

1585（天正13）年７月，秀吉は**関白**に就任して姓を藤原と改め，翌年には太政大臣となり**豊臣**の姓を受けた。秀吉は関白就任後に，各地の大名に対して，たがいの領土紛争をすぐにやめ，豊臣政権の裁定に従うよう通告した。これは**惣無事令**と呼ばれる。1587（天正15）年には，九州の領土裁定を不満とした島津氏を制裁するために，秀吉は九州に兵を出し，島津義久（1533～1611）を降伏させた。1588（天正16）年，秀吉は京都に新築した**聚楽第**に後陽成天皇（位1586～1611）を迎えたが，これは秀吉の領土裁定が，天皇から委

諸藩の改革

諸藩でも，一揆や打ちこわしがおこり，また巨額の借金を抱えて極度に財政が窮乏するなど，本格的な危機に直面していた。このため，財政再建と藩権力の再強化，軍事力の強化をめざす藩政改革が，多くの藩で取り組まれた。

薩摩藩では，**調所広郷**(1776~1848)を中心にして改革に着手した。三都の商人からの借金500万両を，無利息250年賦返済という強引な方法で処理し，他方，奄美大島特産の黒砂糖の**専売制**強化や，幕府が独占的に集荷していた輸出用の俵物をひそかに買いつけて，琉球を通じて中国に売り，唐物を国内に売却する**密貿易**などで藩財政の立直しをはかった。

長州藩では，1831(天保2)年の防長大一揆と呼ばれる大規模な一揆を機に，**村田清風**(1783~1855)を登用した。銀8万5000貫(約140万両)の借金を37年賦返済と事実上棚上げし，下関に**越荷方役所**を設け，他国の廻船がもたらす物産という意味の越荷を抵当に，廻船業者に資金を貸しつけ，あるいはその越荷を買いとって委託販売するなどして利益を上げた。藩みずからが商業活動を活発におこなったのである。また，欧米との戦争を想定した軍事演習も実施した。

佐賀(肥前)藩では，藩主**鍋島直正**(1814~71)が均田制を実施し，地主から没収した小作地を小作人へ再配分して本百姓体制の再建をはかった。また特産の有田焼(伊万里焼)の専売を強めて藩の財源とし，日本で最初の反射炉を築いて大砲製造所を設けるなど，藩権力の強化につとめた。

高知(土佐)藩では，改革派を登用して緊縮による財政の再建が進められ，藩主**山内豊信**(1827~72)(容堂)の代には，大砲鋳造や砲台築造など軍事力の強化をはかった。

このほか，**伊達宗城**(1818~92)の宇和島藩，**松平慶永**(1828~90)(春嶽)の福井(越前)藩などでも有能な中・下級藩士を要職に抜擢し，三都の商人や領内の地主・商人と結びつき，積極的に商業活動をおこなって藩権力の強化をはかった。しかし水戸藩では，藩主徳川斉昭の努力で改革がおこなわれたが，激しい藩内抗争のためにうまく進まなかった。

これらの諸藩は，藩の深刻な危機に直面して有能な中・下級藩士を登用し，財政危機を打開するために借金を強引な手法で整理した。さらに藩みずから商業や工業に乗りだして財政収入の増加をはかり，それとともに軍事力の増強につとめ，藩権力の強化をめざした。このような藩が**雄藩**として，幕末の政局に強い発言力と実力をもって登場することになる。幕府権力の衰退の一方，藩政改革による諸藩の自立化の動きは，幕藩体制が解体する要因となった。

4部構成の部扉

各部扉では，日本と世界における大きな時代の流れについて述べており，**総合的な歴史の把握**をうながします。また，下部には年表を設置して，概説とあわせて歴史を俯瞰できるよう工夫しています。

第4部

近代・現代

欧米で産業革命が進むと，工業生産力を飛躍的に高めたイギリスなど欧米列強は，市場と原料の供給地を求め，19世紀半ばに東アジアにも進出を本格化させた。こうして清国・日本・朝鮮は，開国要求に対応をせまられた。

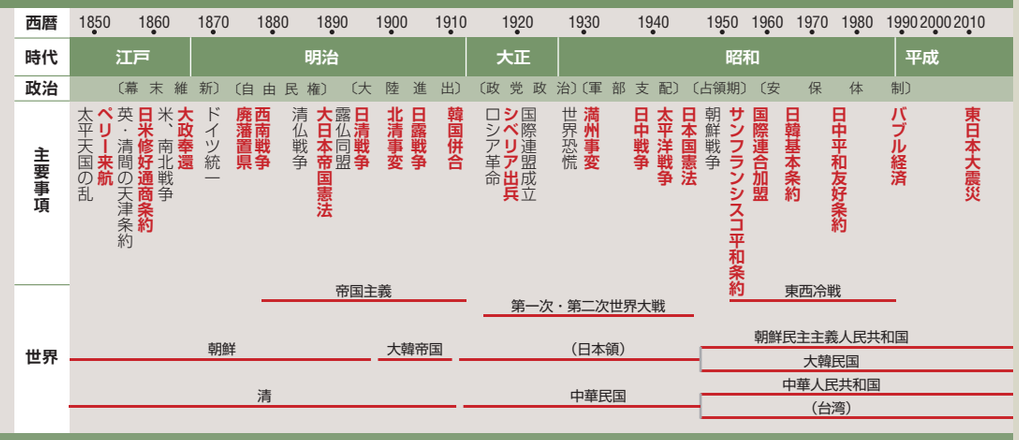
日本は，不平等条約を締結させられたが，本格的な戦争をせずに開国した。国家と民族の独立を維持するため，幕藩体制のもとでは欧米のような近代化は不可能であるとの見方が広まった。そこで少年である明治天皇をシンボルとし，薩摩・長州・土佐などを中心に明治維新がおこなわれた。

維新後，富国強兵をめざし近代化につとめた日本は，大日本帝国憲法をつくり，日清・日露の二つの戦争に勝利し，台湾領有，満州(中国東北部)の利権獲得，韓国併合などをおこなった。列強と同様の植民地をもつ帝国になった日本は，不平等条約の完全な改正に成功した。

第一次世界大戦で日本の国力はさらにのび，英・米とともに世界の三大国になった。第一次世界大戦後，国際協調の時代が一時的に到来した。しかし，最初の社会主義国ソ連の台頭，中国ナショナリズムの高まり，世界恐慌の影響によって，日本は満州事変から日中戦争へと中国との全面戦争を開始した。さらに，ドイツ・イタリアと同盟を結び，第二次世界大戦に加わり，アメリカ・イギリスなどの連合国と戦って敗北し，占領された。

第二次世界大戦後，日本は新憲法体制で平和国家となった。アメリカとソ連が激しく対立する冷戦が始まると，日本はサンフランシスコ平和条約・日米安全保障条約を結んで独立し，西側陣営の一員として国際社会に復帰した。アメリカとの連携のもとで，日本は経済成長をとげ，世界有数の経済大国となった。

その後，冷戦が終了してソ連は崩壊したが，世界経済は不安定で，民族対立やテロも激しくなった。この中で，日本がどのような役割を果たしていけるのか，世界は注目している。



第一次と第二次の護憲運動の比較

従来，第二次護憲運動よりも，11年前の第一次護憲運動を，政党側が藩閥官僚勢力に対抗し，積極的に民衆と結んで政治変革をめざした，と高く評価する見方がある。確かに第一次護憲運動では，1913(大正２)年２月10日に数万の群衆が第３次桂太郎内閣の倒閣をめざして，帝国議会を包囲し，翌11日未明まで，警察署・交番や政府系の新聞社などを襲い，焼打ちをおこなった。しかし，運動は，その後にどのような新しい秩序をつくったかが重要である。

第一次護憲運動は，東京市・大阪市・京都市など都市部の運動にすぎない。第二次護憲運動は，暴動をともなわず，普通選挙を争点とした総選挙の候補者支援運動としておこなわれた。この結果，農村部のすみずみまで運動が広がった。

第一次護憲運動は桂内閣を倒し，元老の政治への影響力を弱め，元老山県有朋を盟主とし，陸軍・貴族院などを中心とした山県系官僚閥に対し，ある程度の打撃を与えた。しかし，農村部において，有力地主などが地域政治をコントロールする政治の仕組みなど，各地域の政治はほとんど変えることができなかった。

それに対し，第二次の運動は，清浦奎吾内閣を倒し，護憲三派内閣を実現させ，その後の７年間，政党内閣が継続するきっかけをつくったのみならず，男性の普通選挙法を実現させた。また，この運動の中核となった各地の中間層以下の青年たちが，数年のうちに県会・町村会議員などとなって地方政界に進出し，普選の導入と合わせて，政治の基盤を大幅に大衆化させた。第二次の運動の方が，新しい秩序をつくったのである。

近代・現代

で，米価は低落して農業不況が…硫安など…使うようになっており，現…業など…農業経営を維持した。

1923(大正12)年におこ…**関東大震災**は，京浜地帯…打撃を与え**震災恐慌**を引き…こした。銀行は手持ちの手形が決済できず，日本銀行の特別融資で一時をしのいだが，現金化できない震災手形が発生した。また，震災は大戦中の好景気で蓄積された資本を取り崩すことになり，経済不況は本格化した。

加藤高明首相が病死すると，

コラムの充実

改訂版では「正倉院」を主題学習へ変更し，「郡評論争」「長屋王邸の発掘」「銀と16世紀の日本」「第一次と第二次の護憲運動の比較」の4つのコラムを新たに追加しました。

銀行におしかけた預金者たち　銀行の経営悪化が伝えられると，預金者たちは預金を引き出そうと銀行におしかけ，取付け騒ぎとなった。写真は1927(昭和２)年３月，東京中野銀行の様子。

新日本史教授資料

授業実践編

研究編

パソコンソフト

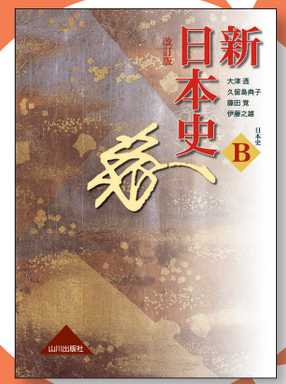
教科書ソフト

日本史正誤問題データ集

授業の下準備に

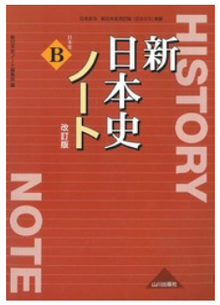
授業教材作成をバックアップ。

授業で使える



対応していて使いやすい

準拠ノート



新日本史改訂版ノート

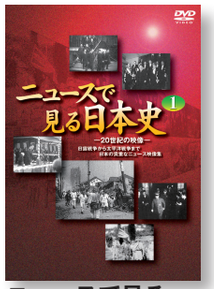
電子黒板・プロジェクター用

日本史デジタル教材集

NEW日本史デジタル素材集

DVD教材

ムービー日本史



ニュースで見る日本史

新日本史 改訂版 教授資料 授業実践編

B5判・380頁　本体4000円（税別）

『新日本史　改訂版』を使った授業実践にご利用いただける材料を盛り込みました。
指導上の目標や板書例・発問例など，授業展開に役立つ内容を取り入れています。

安土・桃山文化

学習のねらい

豪華・壮大な安土・桃山文化の特色をおさえる。

指導上の留意点

1．豪華・壮大な安土・桃山文化を理解させる。
2．南蛮文化の特色を考察させる。
3．宗教性の薄い現実的な文化が広まったことを理解させる。

解説

1．安土・桃山文化の特色

解説 A —安土・桃山文化の安土は織田信長の安土城，桃山は豊臣秀吉の伏見城のこと。信長の時にはじめての天守閣をもつ壮大な安土城がつくられた。秀吉の伏見城は，京都と大坂をにらむ秀吉の居城。

解説 B —戦国大名は，権力の象徴として大規模な城郭を築き，内部に豪華な障壁画を描かせた。

解説 C —南蛮貿易によって西欧文化の影響が日本へ浸透した。江戸時代の文化の深層の1つとなった。

解説 D —戦国大名と結びついた豪商たちも豪華で壮大な文化を支持する一方，精神的な深さを求める侘茶も支持した。

2．城郭建築

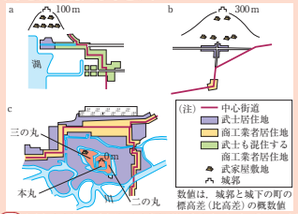
解説 A —城郭の郭とは曲輪のことで，城の囲い，およびその囲いの中の土地・建物の意味である。城郭はいくつかの曲輪で構成される。

〔山城〕山頂や尾根筋など山の地形を利用して築かれた城。ふもとの居館と一体となってつくられた。

〔平山城〕平野の中の小丘陵を利用し，軍事的な山城の防御を備え，その周辺に領主の居館をおいた。領内の政治・経済上の中心となっていった。

〔平城〕平野部に堅固で高い石垣をめぐらし，深くかつ幅広い水濠で囲み，堅牢な櫓・城門を備え，その本丸には従来みられなかった天守閣をつくり繁華な城下町を構成した。

発問例 図a〜cは，戦国時代から江戸時代にかけて建設された城下町である。建設年代を古いものから順に配列しなさい。



（答）bは山城，aは安土城を模式化したもの，cは平城で城下町を形成。b—a—cである。

図版 姫路城（白鷺城）

姫路平野の中央45mの姫山を利用した平山城。縄張（城郭の構成）は，天守へ行くまでの経路はらせん状に三重に旋回させる。大天守を中心に，3つの小天守をつなげた連立式天守の姿が美しく白鷺城ともいう。1993（平成5）年，世界遺産となる。

板書例

《安土・桃山文化》

1．安土・桃山文化の特色
　A．織田信長・豊臣秀吉の時代の文化
　　信長の居城—安土城
　　秀吉の居城—伏見城はその城跡に桃が植えられ桃山と呼ばれた
　B．豪華・壮大な文化—巨大な城郭や大画面の障壁画
　C．外国文化の流入—南蛮文化の浸透と拡大
　D．現実的で仏教色の薄い文化—町衆たちの豪商の文化
2．城郭建築
　A．城郭建築の発展—領国経営の政庁としての威容を示す
　　山城—中世の城郭，防御中心の城
　　平山城—平野の中の小丘陵を利用
　　平城—平野の中につくる。濠・石垣・天守閣をもつ
　B．障壁画の発展—城郭の内部を飾る
　　①狩野派の隆盛—濃絵（金壁画）の手法に優品
　　狩野永徳・山楽らの活躍
　　└風俗画に「洛中洛外図屏風」がある
　　②長谷川等伯—「松林図屏風」が幽玄な世界を示す
3．外国文化の流入
　A．活字印刷術の流入—朝鮮から木版活字，「慶長勅版」できる
　B．南蛮文化の流入—キリスト教宣教師たちが伝える
　　①金属活字による印刷—キリシタン版がつくられる
　　②ヨーロッパの文物・衣食住が伝わる—時計・メガネ・オルガン
　　③南蛮屏風が描かれる
4．町衆と庶民の文化
　A．茶の湯の流行—千利休による侘茶の大成（妙喜庵待庵）
　　└北野の大茶会が開催（1587）
　B．庶民文化—小袖の着用，阿国歌舞伎，隆達節，人形浄瑠璃

として日本に連行した。薩摩の島津氏は多数の捕虜を連行したが，その中の朝鮮人陶工が，のちに薩摩焼を大成した。連行された朝鮮の朱子学者も，藤原惺窩ら日本の儒学者と交流し，江戸時代の朱子学に大きな影響を与えた。他の多くの朝鮮人捕虜は，朝鮮侵略の陣夫動員で労働力不足に悩んでいた西国大名領の農耕労働者として使役された。

安土・桃山文化　信長・秀吉時代の文化を，その居城の地にちなんで**安土・桃山文化**と呼ぶ❶。安土・桃山文化の特徴の一つは，権力者がみずからの威光を人びとに示すといった性格が強い点で，豪華・壮大な安土城・大坂城・伏見城などの巨大**城郭**や大画面の**障壁画**をその代表例とする。城郭は，戦乱がおさまってくると，従来の山城のような防御を第一としたものではなく，平地の小高い丘に建てた平山城や平地の平城などが中心となり，重層の**天守閣**や水濠などをめぐらした領国の政庁としての威容を備えたものが建設されるようになった。

城郭の内部を飾る**障壁画**や**屏風絵**では，狩野派の**狩野永徳**や**狩野山楽**らが，金箔地に彩色をほどこした**濃絵**（金碧画）の手法を用いて優品を残した。狩野派は同時に都市生活に題材をとった風俗画も多数描いており，永徳が描いて，信長から上杉氏におくられた**「洛中洛外図屏風」**は有名である。狩野派以外でも**「松林図屏風」**で

姫路城（白鷺城）　関ヶ原の戦いののち城主となった池田輝政が大工事をおこし，1609（慶長14）年に竣工した。総面積56万8000坪（約1,875km²）の平山城で，連立式天守閣がみごとである（本丸・西の丸は現存）。

キリシタン版（天草版『平家物語』）

阿国歌舞伎（「国女歌舞伎絵詞」，京都大学附属図書館蔵）

妙喜庵待庵　臨済宗の禅院妙喜庵の茶室で，秀吉の命令を受けた利休の趣向によるという。利休の歌に「茶の湯とはただ湯をわかし茶をたててのむばかりなることと知るべし」とあるが，2畳敷の狭い空間の構成的工夫に，彼の茶の精神が読みとれる。

幽玄な世界を描いた長谷川等伯や海北友松らがいる。

一方，この時代の文化は，種々の外来文化の影響を受けている点も特徴である。朝鮮侵略の時に伝わった**活字印刷術**では，後陽成天皇の命令で，木製活字による**慶長勅版**がつくられた。またキリスト教宣教師たちは，金属活字による印刷機をもち込んで，九州を中心に**キリシタン版**と呼ばれる活字印刷をおこなった。そのほか，宣教師たちは時計・眼鏡・オルガンなど，ヨーロッパの文物や衣食住の習慣をもち込み，また彼らの風俗を主題とした**南蛮屏風**も多数描かれて，それらが大名たちのあいだでもてはやされた。これを**南蛮文化**と呼ぶが，この時に伝えられた文物の中には，カルタや煙草など，そののちに広く普及したものもある。

この時代は，旧来の文化秩序を打ち破り，都市の**町衆**を主要な担い手とする宗教性の薄い新しい文化が生み出されたことも特徴である。豪商をはじめ，信長・秀吉らの権力者や武将たちのあいだで，茶の湯が好まれたが，堺の商人**千利休**は**侘茶**を大成させて，**妙喜庵にある待庵**のように質素な茶室や独特の茶道具などを生み出した。一方，秀吉は黄金の茶室をつくったり，多様な人びとを参加させた**北野**を1587（天正15）年に開くなど，利休とは異なる方向で茶の湯を用いた。

芸能としては，**出雲の阿国が始めたかぶき踊り**が評判を呼び，**隆達節**とも流行した。琉球から伝来した**三弦**（三味線）の伴奏で語られる**浄瑠璃**人形を操る**人形浄瑠璃**も広まった。生活面では，**小袖**が普及し，するなど，風俗・習慣でこの時代は大きな変わり目となった。

❶ 秀吉は，晩年になると伏見城を築いて住んでいたが，のちに伏見城跡に桃が植えられ，桃山と呼ばれた。

教科書の本文を65%に縮小して入れました。

解説 B —障壁画の中で，余白に金箔を仕立てて群青，緑青，丹などの岩絵具や金銀泥を厚く用いた装飾的な絵画を濃絵という。また，金壁画ともいう。

①—狩野永徳晩年の代表的傑作が「唐獅子屏風」である。『詳説日本史図録』などで生徒にみせたい。巨岩のあいだを歩む雌雄の唐獅子を大きく描き，さらに顔・四肢・たてがみ・尾を強調している。また，『洛中洛外図』も『詳説日本史図録』などで確認する。

②—長谷川等伯には，京都・智積院の『楓図』などのような濃絵のほか，『松林図屏風』のような幽玄な世界を示す水墨画もある。『詳説日本史図録』で確認。

3．外国文化の流入

解説 A —朝鮮出兵の時に，朝鮮から銅活字と印刷具がもたらされ，これを用いて後陽成天皇が『古文孝経』を開版し，1597（慶長2）年に慶長勅版が木活字によって行なわれ，『錦繍段』（室町中期の禅僧が編集した漢詩集）など十数種が刊行された。

解説 B —南蛮文化の浸透を考えさせる。

①—1590（天正18）年，イタリア人宣教師ヴァリニャーニによって西洋の印刷術が伝えられ，島原半島で出版されたのがキリシタン版である。『平家物語』『伊曽保物語（イソップ物語）』がある。

図版 キリシタン版（天草版『平家物語』）

ポルトガル語の発音で日本語をローマ字表記した日本語教育書である。

発問例 キリシタン版の『平家物語』の表紙のローマ字を読みなさい。

（答）「日本のことばとヒストリアを習い知らんと欲する人のために世話にやはらげたる平家の物語」

②—日本の文化に根づいたものが多かった。

③—『詳説日本史図録』の南蛮屏風から南蛮人の様子を読み取らせよう。

4．町衆と庶民の文化

解説 A —千利休は，茶の湯に精神性を求めて侘茶を大成させた。一方，秀吉らの権力者は黄金の茶室など，利休の精神とは異なる茶の湯を求めた。

発問例 秀吉が，京都の北野で大茶湯を開いた目的は何か。

（答）それまでの権力者（義満，義政，信長ら）が所持してきた茶道具（名物という）を広く人々にみせて権力を誇示しようとした。

図版 妙喜庵待庵

内部は2畳の茶室と1畳の次の間，1畳の勝手間からなる。2畳の空間に装飾をそぎ落した侘びの精神を凝縮した茶室である。

解説 B —庶民の生活や文化の変化に着目させよう。

図版 阿国歌舞伎

出雲大社の巫女を名のった阿国は，1603年，京都の北野社頭や四条河原で踊りを始めた。はじめは「ややこ踊り」（少女らによる盆踊り）「念仏踊り」といった。

発問例 阿国歌舞伎の図版で使われている楽器は何か。まだ使われていない楽器は何か。

（答）阿国の打っている鉦，うしろに左から鼓，大鼓，太鼓が並ぶ。まだ三味線の伴奏がない。

❶**板書例**　図解もまじえながら，無理のない分量で簡潔に示しています。内容・構成とも生徒用の準拠ノートと対応しています。

❷**学習のねらい・指導上の留意点**　授業展開の柱となる，単元の重要ポイントを箇条書きで挙げています。

❸**解説**　特に押さえておきたい用語には，簡潔に解説を付しています。

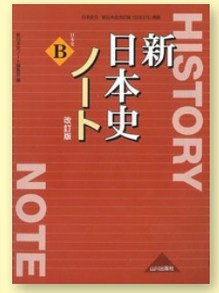
❹**発問例**　授業展開の中ですぐに使える「発問例」と「答」を掲載しています。

❺**図版・地図**　歴史的背景や内容についての解説を付しています。

❻黄色マーカーをひいた用語は，各教科書共通の『教授資料研究編』（B5判・本体6000円〈税別〉，☞p.72-73）にて詳しく解説しています。併せてご利用下さい。

新日本史 改訂版 ノート 日B315準拠

B5判・202頁　本体800円(税別)　2色刷



獲得目標を示すことで，課題意識をもって学習に取り組めます。

目標　藤原北家による摂関政治の成立過程と政治運営の影響について考察し，摂関政治期の政務や儀式について理解しよう。

4章 宮廷貴族社会の成立

1．摂関政治

摂関政治

延喜・天暦の治 ▶㊒p.65

1．天皇親政

A　醍醐天皇の時代―菅原道真の失脚，藤原氏を中心とする(1　　)の成立

B　醍醐天皇・(2　　)の親政―(3　　)の治(897～941，947～967)

①　延喜年間―班田の実施，荘園整理，格式の編纂，『古今和歌集』の編纂

②　天暦年間―学問・芸能の盛行

2．摂関の制の定着

A　(4　　)政権―兄時平の死後，摂政・関白に就任(930～949)

B　摂関の制―天皇が幼少のあいだは摂政を，成年になると関白を置いて天皇を補佐する

C　貴族連合体制―摂関が太政官の上に立って実権を握って政治を行う。儀式の作法・故実の整備も進む

摂関政治 ▶㊒p.65～

1．摂関政治の展開

A　(1　　)―摂政・関白が天皇とともに太政官を指導して政治を行う(10世紀後半～11世紀頃)

B　(2　　)(969)―左大臣(3　　)(醍醐天皇の皇子)ら左遷，藤原北家の勢力が不動になり，摂関常置体制を築く

C　摂関位をめぐる藤原一族間の内紛―兼通と兼家など(11世紀前後)

D　(4　　)―藤原北家の最盛期を築く

①　4人の娘を皇后や皇太子妃として，30年間にわたる栄華を誇る

②　(5　　)―一条天皇と道長の長女(6　　)とのあいだの子

2．外戚と摂関位

A　婿入婚―結婚した男女は妻側の家で生活し，子どもは母方の家で養育

B　(7　　)―母方の親戚。天皇を後見するには重要な立場

C　(8　　)―皇太后や皇后などに宣下された称号。一定の政治力を有す

①　詮子(東三条院)―兼家の子，一条天皇の母

②　彰子(上東門院)―道長の子，後一条天皇の母

D　(9　　)―3代50年間にわたって摂政・関白を務める

E　(10　　)―摂関になる家格として成立。頼通以後，摂関は道長の子孫に固定され，天皇の外戚の有無とは無関係になった

延喜・天暦の治
1.
2.
3.
4.

摂関政治
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.

見開き両脇を解答欄とし，繰り返し問題を解くことができるようにしました。

教科書の構成・本文の流れに沿った問題形式で，教科書の深い理解につながります。

摂関期の政務と儀式

政務と儀式 ▶㊒p.66～

1．摂関政治時代の政務

A　(1　　)―内裏の左近衛陣で行われた公卿の合議。重要事項を審議する

B　(2　　)―中納言以上。宮廷行事の執行，申文の決裁などを行う

C　藤原道長による政治運営―(3　　)(左大臣)・(4　　)(上奏文や太政官符を閲覧)の地位から太政官を統率

D　摂政・一上―(5　　)・除目(官人に位階を与える儀式)で主導権をもち，天皇と協力して人事を行う

E　一条天皇と道長―天皇との信頼感のもとに公卿を指揮し，太政官を基盤に政治を運営。摂関政治の理想とされた

F　摂関政治を支えた諸官司

①　(6　　)・史・外記―太政官の事務局。文書を処理し，先例を調べる

②　(7　　)―天皇と公卿のあいだを取りつぐ

③　その他―式部省・民部省(主計寮・主税寮)・検非違使庁・近衛府

2．宮廷行事の整備

A　(8　　)の重視―儀式の際の行動規範，先例の蓄積

①　仏会―御斎会

②　神事―賀茂祭・春日祭

③　政務儀礼―叙位・(9　　)

B　日記―先例を子孫に伝えるために記録

①　『(10　　)』―藤原道長

②　『(11　　)』―藤原実資

③　『(12　　)』―藤原宗忠(院政期)

C　(13　　)―先例を整理し，祖先の口伝を受け継ぎ，儀式のあり方を詳記

①　『(14　　)』―源高明

②　『(15　　)』―藤原公任

③　『(16　　)』―大江匡房(院政期)

政務と儀式
1.
2.
3.
4.
5.
6.
7.
8.
9.
10.
11.
12.
13.
14.
15.
16.

暗記に終わらないように，歴史を「理解」するためのコラム欄を適宜設けています。

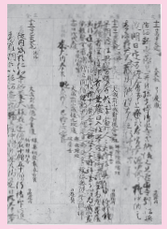
学習を深める

〔貴族の日記〕

『御堂関白記』は現存する最古の自筆原本の日記であり，具注暦という冊子状のカレンダーに書き込まれている。道長のおおらかな性格からか，誤字・脱字はざら，行にもこだわらない。やたら記事の長いときもあれば10字足らずの短い記事のときも多く，読むには苦労する。それでも，全盛期の道長の動向を知る第一級の史料である。

我々の考える日記は，個人的な出来事や思いをつづるものであるが，当時の貴族がつけるそれは違っていた。すなわち，朝廷における政務や儀式・行事の記録が主であり，子孫が朝廷に出仕したときに役立つように子孫へ残すことが主たる目的であった。だから，日記やその写しは，子孫だけでなく，朝廷の儀式や政務の先例として，摂関や儀式・行事にかかわる上卿らへ貸し出されたりすることもあった。

(『日本史史話　1　古代・中世』山川出版社／古瀬奈津子『摂関政治　日本古代史6』岩波書店，2011など。)



『御堂関白記』　自由奔放，誤字も多く難解。

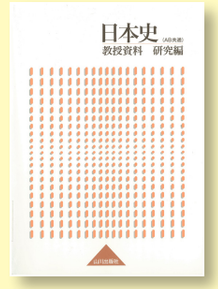
ノートをご採用いただきますと，解答入りのPDFデータをサービスでお付けいたします。

CD

日本史教授資料 研究編（日本史教科書共通）

B5判・456頁　本体6000円（税別）

山川出版社のすべての日本史教科書に共通してご使用いただけます。『詳説日本史』の配列にしたがって，重要項目や史料・図版の内容や見方などについて解説しています。日本史の先生方に必携の一冊です。



心を寄せた。その修禅の事績を伝える一資料がこの図で，高山寺楞伽山中の松林の中で，一樹の上に坐禅瞑目する姿を描く。筆者は恵日房成忍といわれるが，迫力に富む筆法で，道心堅固な上人の風貌を伝え，淡彩を加えて深遠な自然の環境を表わすところなど，鎌倉初期の肖像画でも異色な作品である。

青蓮院流　三跡（蹟）の一人である藤原行成は，平安時代に穏やかな品のよい和風書道を大成し，世尊寺流を開いたが，鎌倉後期に持明院統に属する伏見天皇はこれを受け継いで，大覚寺統の宋風書道に対抗して，新しい和風書道を展開した。伏見天皇の皇子尊円入道親王（1298～1356）は，父天皇の書風にいくらか宋様式を取り入れ，青蓮院流と呼ばれる流派を開いた。青蓮院流は明治時代まで和様の本流として長い生命を保ったが，江戸時代にもっとも広範囲に行われた御家流は青蓮院流の末流である。室町時代の往来物もこの書風で書かれ，見た目の穏やかさ，形のとりやすさは多くの人に親しまれた。

鷹巣帖　31.0cm×485cm。１巻。鷹手本ともいい，西本願寺蔵。尊円入道親王が，「山花」「納涼」など11の題目に自身の漢詩七言２句と和歌１首を記したもので，1349（貞和５）年の奥書がある。

陶磁器とその流通　日宋貿易に伴って，中国製の陶磁器はわが国に多く流入した。ことに12世紀後半から14世紀前半にかけて，ピークを迎えたといわれる。北九州沿岸の博多・箱崎や今津（福岡市西区）では，景徳鎮や龍泉窯で焼かれた大量の輸入陶磁器が発掘されており，その実態がうかがわれる。蝦夷地や琉球を経て流入する場合も少なからずあり，十三湊（青森県五所川原市）や坊津（鹿児島県）も重要な港であったし，また北陸の敦賀や小浜にも直接中国船が入港している。これらの輸入陶磁器は，「三津七湊」などといわれた国内の水運のネットワークを通じて各地に運ばれたのである。

一般に陶磁器というが，1000℃前後で焼き吸水性のある陶器と，1200℃前後で焼き吸水性がなくガラス質の高い磁器の区別がある。国内にも常滑焼（愛知県），珠洲焼（石川県），備前焼（岡山県）などの窯があって，壺・瓶・すり鉢など無釉の陶器が生産されていたが，染付や青磁・白磁などの磁器については，まだ日本では生産することができなかったため，中国製のものが輸入されたのである。一つの中世遺跡から，こうした輸入磁器・常滑など国内の他地域の陶器，地元の陶器が併わせて出土することが多く，これらは用途別に使用されていたようである。

瀬戸焼の陶祖とされる加藤景正には，1223（貞応２）年，道元に従って入宋し，製陶法を学んで帰国し，窯を開いたという伝承がある。しかし，瀬戸窯の成立は道元入宋以前にさかのぼることや，当時の瀬戸焼（古瀬戸）と輸入陶磁器との技術の差が非常に大きいことから，この伝承は事実ではないとするのが一般的である。しかし，当時の国内産の陶器の中で，瀬戸焼は唯一，釉薬をかけて焼いたものであり，輸入陶磁器の代用品として国内に流通・分布したことは特筆すべきであろう。ちなみに，磁器生産を国内窯が始めるのは，江戸時代初期の有田焼からであり，瀬戸では有田からその製法を学んだのである。

新安沖の沈没船　蒙古襲来後も，日元間の民間ベースで交流は活発に続けられていた。1976年，韓国全羅南道新安郡木浦市の沖合で，この時期の沈没船が見つかったが，これはそうした活発な交流の一端をうかがうことができる貴重な発見となった。

この船は1323年６月頃，中国の寧波から博多に向かう途中に難破したもので，船長30m，乗組員60人程度の当時の平均的な貿易船（中国式ジャンク）であった。積荷は，陶磁器２万点余，銅銭28トン・約800万枚，紫檀材1000本というもので，発見された木簡から1319（元応元）年に焼失した東福寺再建を目的とする「東福寺造営料唐船」と推定されている。1325（正中２）年の建長寺船や1342（康永元・興国３）年の天龍寺船と同じような寺院造営料を得るための公許貿易船であるが，実態は複数の荷主からなる民間貿易船といってもよいものであった。

また，この時に日本製の鏡・将棋の駒・下駄などのほか，高麗式の匙や中国式の炊事用具なども発見されており，乗組員は日本人のほかに朝鮮人・中国人もいたことが判っている。

〈参考文献〉　川添昭二他『福岡県の歴史』（山川出版社）

有徳人　徳人・得人ともいう。本来，仏教用語である「有徳」は徳業のすぐれた有様を表わし，「有徳人」とは「徳」の備わった人のことを示すのだが，中世においては，社会に浸透してきた貨幣経済を背景に，非農業的で非領主的な富裕者，すなわち商人・借上・土倉・山僧・酒屋など流通や金融関係に携わる庶民（凡下）の富裕者を指す場合が一般的である。

このような富裕者は経済的利得，すなわち収入を表わす得分の「得」＝資材・銭貨・米穀など動産的な富を得ているが，これが同音の「徳」と表記される背景には，その業務形態ゆえに貪欲冷酷とみられる彼らの贖罪の意識から，社会への経済的・宗教的還元＝「功徳を施す」の意味合いでの「喜捨」的な行為を彼ら自身が行い，周囲の者たちが富の平準化を求める，中世の「有徳」観がある。また，鎌倉後期から室町時代さらに戦国時代にかけて，幕府・守護・寺社など領主層が有徳人すなわち富裕者に対し，祭礼・仏寺・神事などに当てる名目で有徳役や有徳銭を賦課した。

なお，非領主的で庶民的な致富の側面は，近世の上方町人にも引き継がれたので，仮名草子や浮世草子にも有徳人の語が見られる。

〈参考文献〉　阿倍浩一「戦国期の有徳人層と地域社会」『歴史学研究768号』（青木書店）

1 室町幕府の成立

持明院統と大覚寺統　後深草・亀山両天皇の父で「治天」（天皇家の家長として，実際の政務を掌握した天皇・上皇）として院政を行った後嵯峨上皇は，1272（文永９）年に没したが，幕府によって擁立された後嵯峨は，後継の「治天」を指名しなかった。幕府は，後深草・亀山の生母大宮院に後嵯峨の遺志を尋ね，亀山が「治天」として親政を行った。亀山が，皇子の後宇多天皇に譲位し院政を開始すると，後深草は前途に失望し，出家の決意を表明する。幕府は後深草の皇子（のちの伏見天皇）を後宇多の皇太子とした。伏見の即位により，後深草は院政を開始し，伏見の親政，伏見の皇子の即位（後伏見天皇）と伏見院政の開始と後深草の皇統に有利な状況が続く。

しかし，後伏見の皇太子は後宇多の皇子（のちの後二条天皇）とされ，後二条の皇太子は伏見の皇子（のちの花園天皇），花園の皇太子は後宇多の皇子（のちの後醍醐天皇）とされ，両皇統が交代で「治天」の座につくこととなった（両統迭立）。後醍醐の皇太子は当初，後二条の皇子とされたが早世したため，結局，後伏見の皇子（のちの光厳天皇）が皇太子となった。

このように，天皇家が後深草の皇統と亀山の皇統とに分裂し，「治天」の座をめぐって対立したのであるが，この後深草の皇統を持明院統，亀山の皇統を大覚寺統と呼ぶ。持明院統は長講堂領を，大覚寺統は八条院領を掌握し，室町院領は両統が折半し，皇室領も両統によって分割された。

両統の対立は，公家社会の各家の内部対立とも結びつき，また，両統内部でも兄弟による即位があって，天皇家はさらに分裂する可能性もあった。後醍醐の討幕の背景には，大覚寺統内での傍流としての立場や，両統迭立により，いずれ後伏見の皇子に皇位を譲らなければならない自らの立場を克服する必要があったことが指摘されている。

後醍醐は一旦は討幕に成功したが，建武政権はすぐに崩壊し，大覚寺統は南朝となり，持明院統は北朝となって，両統の対立は南北朝の統一まで続くこととなる。

後醍醐天皇の親政と討幕計画　【親政】　1321年，後宇多法皇は後醍醐天皇に政務を譲り，後醍醐天皇の親政が始まった。後醍醐天皇は記録所を置いて親政の中心機関とし，日野資朝・俊基をそれぞれ参議・蔵人頭に起用するなど人材を抜擢する人事を行った。そして，新関の廃止，洛中の酒屋役の徴収，洛中の米価や酒価の公定，洛中に米市場を設け公定価格での販売強制など，都市京都支配の強化や流通・商業を掌握しようとする新しい政策をつぎつぎに打ち出した。

【正中の変】　持明院統は，1318年の後醍醐天皇即位・邦良（後二条の子）立太子に不満を持ち，邦良の即位と持明院統の量仁の立太子の早期実現を期して，幕府への働きかけを行った。また，祖父後宇多法皇の死（1324）により後見を失った邦良は，早期の践祚（即位）の実現を目指し，幕府への働きかけを行った。こうして後醍醐天皇の退位が遠からず行われる情勢となった。

これに対して後醍醐天皇は，「無礼講」と称する会合を催して討幕の計画を練った。参会したのは側近の日野資朝・日野俊基，美濃武士の多治見国長らであった。1324年９月の北野祭当日を決起の日と定めたが，計画が事前に漏れ，資朝・俊基らは逮捕された。後醍醐天皇は幕府に討幕計画に無関係である旨の弁明を行い，幕府は資朝を首謀者として佐渡に流し，後醍醐天皇の処分は行わなかった。

【元弘の変】　正中の変により後醍醐天皇の立場は悪化し，持明院統の邦良譲位・量仁立太子実現に向けての幕府の働きかけは強まった。1326年３月に邦良が死去すると，次の皇太子には後醍醐天皇の望む子の世良親王ではなく，幕府の支持を得て持明院統の量仁親王がなった。この決定に不満を持つ後醍醐天皇は，日野俊基らと再び討幕計画を練った。まず南都北嶺の勢力を結集するために，子の尊雲法親王（後に還俗して護良親王），ついで尊澄法親王を天台座主とし，自らも東大寺・興福寺・日吉社・延暦寺などに行幸した。

しかし，後醍醐天皇の性急な行動に危機感をいだいた側近の吉田定房は，1331年六波羅探題に計画を密告し，六波羅は俊基らを逮捕した（俊基は後に鎌倉で処刑）。後醍醐は宮中を脱して，南都に潜行の後，笠置山で挙兵した。幕府は大軍を派遣し，皇太子量仁を皇位に就け（光厳天皇），後醍醐を捕らえ，翌年，隠岐に流した。こうして後醍醐の２度目の討幕計画も失敗に終わったが，畿内を中心に反幕府勢力の活動は鎮静せず，幕府倒壊への流れが形成された。

鎌倉幕府の滅亡　最後の得宗北条高時が生まれたのは，1303（嘉元元）年であるが，この13世紀末から14世紀初頭の時期は，社会の様々な領域に動揺が起こり始めた時期であった。13世紀半ば以降，その活動を活発化させつつあった悪党の問題はさらに深刻化し，1309（延慶２）年には熊野山の悪党を鎮圧するために15カ国の軍勢が動員され，1318（文保２）年には山陽・南海道の12カ国で六波羅から派遣された使節の指揮の下で大規模な悪党一斉取締りが行われている。

幕府中枢にあっても，1293（永仁元）年に内管領平頼綱が得宗北条貞時によって滅ぼされ，1305（嘉元３）年には貞時の仰せと称する武士に連署の北条時村が討たれ，これが北条一族ながら内管領となっていた北条宗方の陰謀とされて，宗方が討たれるという事件（嘉元の乱）が起きた。朝廷においても皇位をめぐる持明院統・大覚寺統の対立が激しくなり，1317（文保元）年には，幕府の調停によって両統の話合いがもたれた（文保の和談）が，不調に終わっている。

このようななかで，1318（文保２）年に即位した後醍醐天皇は，1321（元亨元）年には親政を開始し，積極的な政治を展開する。一方幕府では，1316（正和５）年に高時が執権に就任したが，高時は病弱だったと考えられ，田楽や闘犬に没頭し，政治は内管領長崎円喜・高資父子や外戚の安達時顕によって行われた。しかし高資は，蝦夷地代官安東氏の内紛に際し，両方から賄賂をとってそれぞれに都合のよい下知を与え，両者が蝦夷を動員して合戦に及ぶに至る。

そのようななかで，後醍醐は自らの立場を強化するためには幕府を倒すことが必要と考え討幕を計画するが，計画は1324（正中元）年に露顕，二度目の計画も1331（元弘元）年に露

教科書ソフト

教科書の本文や地図・図版といった教科書に掲載されているデータに加え，『教授資料 授業実践編』より板書例や用語解説，テストやプリント作成に役立つイラストや白地図，年表，準拠テスト例などの素材をCDに収録しました。さらに，操作方法などを説明した「教科書ソフト活用ガイド」も収録しております。

❶教科書データ Word

教科書の本文，注，写真キャプションといった文字情報のほか，地図や図版も収録しています。

❷準拠テスト例 Word

教科書準拠のテスト例を収録。Word形式なので授業の進度に合わせて編集可能です。

第3章　貴族政治と国風文化

2　国風文化

◉国文学の発達

9世紀後半から10世紀になると，貴族社会を中心に，それまでに受け入れられた大陸文化を踏まえ，これに日本人の人情・嗜好を加味し，さらに日本の風土にあうように工夫した，優雅で洗練された文化が生まれてきた。このように10～11世紀の文化は，国風化という点に特色があるので，**国風文化**と呼ばれる。

文化の国風化を象徴するのは，**かな文学**の発達である。すでに9世紀には，万葉がなの草書体を簡略化した**平がな**や，漢字の一部分をとった**片かな**が表音文字として用いられていたが，それらの字形は，11世紀の初めにはほぼ一定し，広く使用されるようになった。その結果，人びとの感情や感覚を，日本語で生き生きと伝えることが可能になり，多くの文学作品が生まれた。

まず，和歌がさかんになり，905(延喜5)年，紀貫之らによって最初の勅撰和歌集である『**古今和歌集**』が編集された①。その緒論で技巧的な歌風は，古今調と呼ばれて長く和歌の模範とされた。

貴族は公式の場では従来通り漢字だけで文章を記したが，その文章は純粋な漢文とはかなりへだたった和風のものになった②。

一方，かなは和歌を除いて公式には用いられなかったが，日常生活では広く用いられるようになり，それに応じてすぐれたかな文学の作品がつぎつぎに著された。かな物語では，伝説を題材にした『竹取物語』や歌物語の『伊勢物語』などに続いて，中宮彰子(道長の娘)に仕えた紫式部の『**源氏物語**』が生まれた。これは宮廷貴族の生活を題材にした大作で，皇后定子(道隆の娘)に仕えた清少納言が宮廷生活の体験を随筆風に記した『**枕草子**』とともに，国文学で最高の傑作とされている。また，道長の栄華をたたえた歴史物語『栄華物語』も，女性の手によってかなで書かれた。かなの日記は，紀貫之の『土佐日記』を最初とするが，宮廷に仕える女性の手になるものが多く，細やかな感情が込められている。

こういったかな文学の隆盛は，貴族たちが天皇の後宮に入れた娘たちにつきそわせた，すぐれた才能をもつ女性たちに負うところが大きい。

◉浄土の信仰

摂関時代の仏教は，天台・真言の2宗が圧倒的な勢力をもち，祈[1]を通じて現世利益を求める貴族と強く結びついた。その一方で神仏習合も進み，仏と日本固有の神々とを結びつける**本地垂迹説**③も生まれた。また怨霊や疫神をまつることで疫病や飢饉などの災厄から逃れようとする御霊信仰が広まり，**御霊会**がさかんにもよおされた④。

寄木造の手法

寄木造の手法

来帯・女房装束・水干　来帯は，身分により色が違った。宮廷での女性の正装は女房装束で，色の異なる袿を何枚も重ねて美しさを強調した。水干や直垂は庶民や武士などに広く用いられた。

【一覧表】

おもな歌作者

【詩歌】 古今和歌集(紀貫之ら)/ 和漢朗詠集(藤原公任)

【物語】 竹取物語 / 伊勢物語 / 宇津保物語 / 落窪物語 / 源氏物語(紫式部)
栄華物語(赤染衛門?)

【日記・随筆】 土佐日記(紀貫之)/ 蜻蛉日記(藤原道綱の母)/ 枕草子(清少納言)
和泉式部日記(和泉式部)/ 紫式部日記(紫式部)
更級日記(菅原孝標の女)

【その他】 和名類聚抄(源順)

おもな建築・美術作品

【建築】 醍醐寺五重塔 / 平等院鳳凰堂 / 法界寺阿弥陀堂

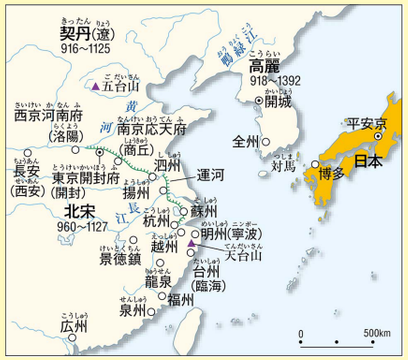
【彫刻】 平等院鳳凰堂阿弥陀如来像(寄木造) / 法界寺阿弥陀如来像(寄木造)

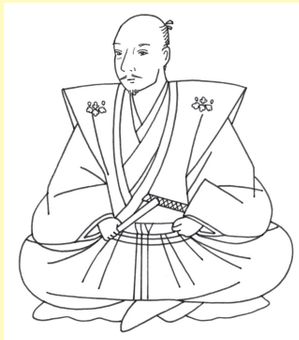
❸地図・図版 JPEG

教科書に掲載されている地図や図版をすべて収録(写真除く)。地図はカラーだけでなくモノクロでも収録されているので，テストや授業プリントなどに貼りつけてのご使用が可能です。

❹白地図 JPEG

各地域別の白地図を収録しています。





❺イラスト JPEG

プリント作成などの際，ワンポイントで使える人物や建物等のイラストを多数収録。

❻板書例・発問例・用語解説 Word

『教授資料 授業実践編』より，板書例・解説などを収録。

❼史料 Word

教科書や図録などに掲載されているものを中心に，頻出する史料文を口語訳と併せて収録しています。

❽年表 Excel

原始・古代から現代までの年表を収録しています。

❾デジタルブック PDF

教科書のレイアウトをそのままに，デジタルブック(PDF)として収録しました。

❿山川外字フォント

教科書で使用している外字フォントがインストールできます。

日B309	日B315	日B314
詳説日本史 改訂版	新日本史 改訂版	高校日本史 改訂版
商品番号：72-012	商品番号：72-015	商品番号：72-014

本体価格：各9,000円(税別)

対応機種　Windows 10/8.1
対応ソフト　Microsoft Word 2013以上／Microsoft Excel 2013以上
対応ブラウザ　Internet Explorer Ver.11以上

山川のICTでつ なぐ+ふかまる

電子黒板・プロジェクター用

日本史デジタル指導書（日本史A・B共通）

本体38,000円（税別）　商品番号：86-073　※デジタル教材集とデジタル素材集とのセット販売になります。

山川デジタル指導書の特長

- 電子黒板やプロジェクターなどICT機器を使用した授業で使えるPowerPoint教材を収録。
- 教科書・教授資料のデータやデジタル素材集などを活用してPowerPoint教材のカスタマイズが可能。
- 特典として，PowerPointの使い方を収録。教科書ソフト（別売り）やデジタル素材集とあわせて使うことでICT対応のオリジナル教材が容易に作成できる。

日本史デジタル教材集　※単体でもご購入できます。

本体18,000円（税別）　商品番号：86-075　※指導書扱いにつき，教科書取扱い書店にご注文ください。

デジタル素材活用の，あらゆる授業スタイルに対応！

3つのポイント
❶PowerPoint板書例（104のテーマ，1200以上のスライド）をご用意
❷短くまとめたエッセンスでポイントが一目瞭然
❸動画や教授資料等の教材も充実

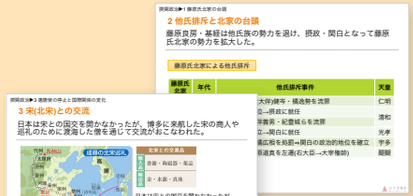
内容（日本史A・B共通）

①PDFデータ
・教科書改訂版5点
・教授資料『授業実践編』改訂版5点
（詳説日本史〈日B309〉・高校日本史〈日B314〉・新日本史〈日B315〉・日本史A〈日A311〉・現代の日本史〈日A314〉）
・教授資料『研究編』

②授業用PowerPoint教材
・104テーマ（スライド1200以上）
・特典（PowerPointの使い方）
1ランク上の「PowerPoint資料作成術」／ PowerPointで鍛える歴史の「論理思考」

③デジタルMovie（24点）

④黒板投影用デジタル白地図



NEW 日本史デジタル素材集　※単体でもご購入できます。

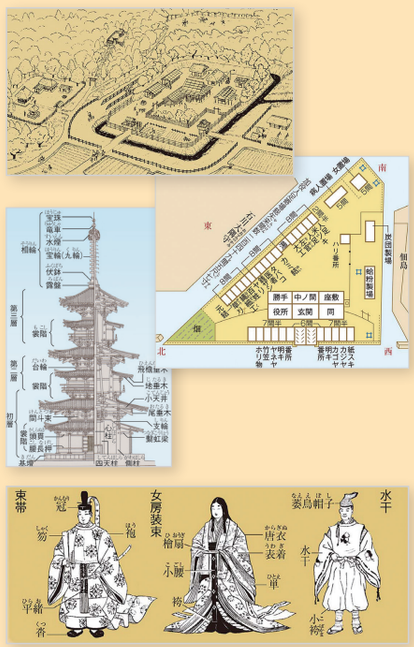
本体20,000円（税別）　商品番号：87-066

探していた素材がすぐ見つかる！すぐ使える！

3つのポイント
❶定評ある教科書と図録から，約2,600点を収録
❷教科書，キーワードなどから簡単に検索できる
❸画質の鮮明さにこだわり，遠くからでもよく見える

「山川日本史教科書全5冊」の特長
- 弊社発行の日本史教科書全5冊に加え，2冊の図録より，写真を除くすべての地図，系図，年表，グラフ，イラスト等の図版や資料を収録。
- 教科書の章立てだけでなく，キーワード検索が可能で，授業準備や授業中でもパソコンの画面上で簡単にセレクト・保存ができる。先生方のイメージする画像を使った授業を強力にサポート。
- パソコン画面上で拡大・縮小も簡単にでき，強調したい部分の投影も可能。
- 教室の後方からでも，十分鮮明な画像が得られる解像度。
- 画像データは，プリント作成にも使用可能。

日本史A・B共通
【教科書】日本史A：現代の日本史（日A314）・日本史A（日A311）
日本史B：詳説日本史（日B309）・新日本史（日B315）・高校日本史（日B314）
【図録】詳説日本史図録／ビジュアル版日本史図録



パソコンソフト

日本史正誤問題データ集

先生用（Windows版CD-ROM）

本体25,000円（税別）　商品番号：86-069

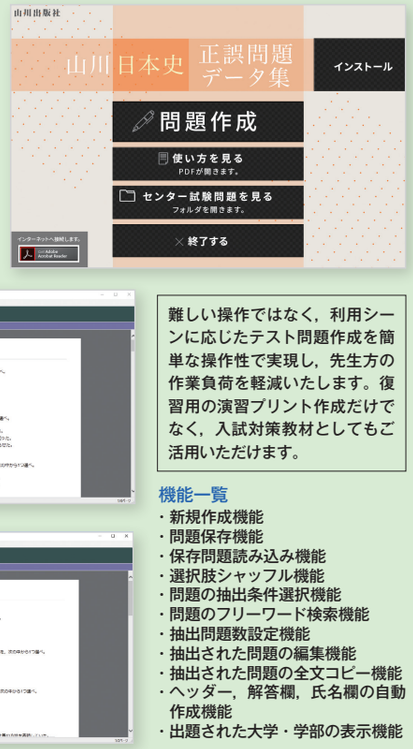
おなじみの正誤問題集が最新バージョンで登場！

3つのポイント
❶かんたんな操作性を実現
❷利用シーンに応じたオリジナル教材がつくれる
❸復習用の演習プリントのほか，実践的な入試対策としても使える

2015年までの大学入試に出題された過去7年間分の正誤問題を集めて収録。様々な条件での抽出はもちろん，詳説日本史（日B309）の章・節からの抽出やキーワードでの検索も可能です。

※対応機種：Windows 8.1，10

［抽出条件］
・出題年度
・時代区分　「原始・古代／中世／近世／近代・現代／総合」
・難易度　「基礎／標準／発展」
・分野　「政治・外交／経済・社会／文化／総合」
・章・節　詳説日本史の章・節



難しい操作ではなく，利用シーンに応じたテスト問題作成を簡単な操作性で実現し，先生方の作業負荷を軽減いたします。復習用の演習プリント作成だけでなく，入試対策教材としてもご活用いただけます。

機能一覧
・新規作成機能
・問題保存機能
・保存問題読み込み機能
・選択肢シャッフル機能
・問題の抽出条件選択機能
・問題のフリーワード検索機能
・抽出問題数設定機能
・抽出された問題の編集機能
・抽出された問題の全文コピー機能
・ヘッダー，解答欄，氏名欄の自動作成機能
・出題された大学・学部の表示機能

デジタル地図

山川デジタル歴史地図

本体35,000円（税別）　商品番号：86-079

地歴科ご担当の先生に必携のデジタル歴史地図。世紀ごとの世界地図をメインMAPとし，そこから教科書や図録に収載の地図への切り替えが可能。描画ツールを使って書き込みもでき，白地図にも切り替えられる。

拡大縮小や表示範囲が自由自在！これからの歴史授業に必携のデジタルMap

映像教材

動く写真集

ムービー日本史（全4巻）

本体各15,000円（税別）　商品番号：1巻87-026／2巻87-027／3巻87-028／4巻87-062

高等学校のベストセラー教材「日本史写真集」全6巻・388項目の中から特に必要度の高い138項目を厳選し，DVD4枚に収録。

授業の導入に最適！わかりやすいナレーション詳しい解説書付

日本史Ⓐ Ⓑ
教科書一覧

Ⓐ

日A 311

日A 314

Ⓑ

日B 309

日B 314

日B 315

著作者・編集協力者

（2020 年 3 月現在，五十音順）

荒井 晴夫（あらい・はるお）
前埼玉県立岩槻高等学校長
歴史教育
- 高校日本史

伊藤 之雄（いとう・ゆきお）
京都大学名誉教授
日本近代史
- 新日本史

老川 慶喜（おいかわ・よしのぶ）
跡見学園女子大学教授
日本近代史
- 詳説日本史
- 高校日本史
- 日本史 A

大津 透（おおつ・とおる）
東京大学教授
日本古代史
- 新日本史

加藤 陽子（かとう・ようこ）
東京大学教授
日本近代史
- 詳説日本史
- 高校日本史
- 日本史A

久留島 典子（くるしま・のりこ）
東京大学教授
日本中世史
- 新日本史

五味 文彦（ごみ・ふみひこ）
東京大学名誉教授
日本中世史
- 詳説日本史
- 高校日本史

斉藤 真幸（さいとう・まさき）
群馬県立前橋女子高等学校教諭
日本近代史
- 日本史A

早乙女 雅博（さおとめ・まさひろ）
東京大学名誉教授
考古学
- 高校日本史

坂上 康俊（さかうえ・やすとし）
九州大学教授
日本古代史
- 詳説日本史
- 高校日本史

桜井 英治（さくらい・えいじ）
東京大学教授
日本中世史
- 詳説日本史
- 高校日本史

笹山 晴生（ささやま・はるお）
東京大学名誉教授
日本古代史
- 詳説日本史
- 高校日本史

佐藤 信（さとう・まこと）
東京大学名誉教授
日本古代史
- 詳説日本史
- 高校日本史

塩出 浩之（しおで・ひろゆき）
京都大学准教授
日本近代史
- 現代の日本史

白石 太一郎（しらいし・たいちろう）
国立歴史民俗博物館名誉教授
考古学
- 詳説日本史

鈴木 淳（すずき・じゅん）
東京大学教授
日本近代史
- 詳説日本史
- 高校日本史
- 日本史A

高埜 利彦（たかの・としひこ）
学習院大学名誉教授
日本近世史
- 詳説日本史
- 高校日本史
- 日本史A

高橋 典幸（たかはし・のりゆき）
東京大学准教授
日本中世史
- 詳説日本史

高村 直助（たかむら・なおすけ）
東京大学名誉教授
日本近代史
- 日本史A

鳥海 靖（とりうみ・やすし）
東京大学名誉教授
日本近代史
- 現代の日本史

中家 健（なかいえ・たけし）
東京都立小石川中等教育学校教諭
日本史教育
- 詳説日本史

中里 裕司（なかざと・ひろし）
前東京都立日比谷高等学校教諭
日本近代史
- 詳説日本史

中村 尚史（なかむら・なおふみ）
東京大学教授
日本近代史・経済史
- 現代の日本史

野﨑 雅秀（のざき・まさひで）
東京大学教育学部附属中等教育学校教諭
日本近代史・歴史教育
- 日本史 A

藤田 覚（ふじた・さとる）
東京大学名誉教授
日本近世史
- 新日本史

牧原 成征（まきはら・しげゆき）
東京大学准教授
日本近世史
- 詳説日本史

三谷 博（みたに・ひろし）
跡見学園女子大学教授
日本近世・近代史
- 現代の日本史

吉田 伸之（よしだ・のぶゆき）
東京大学名誉教授
日本近世史
- 詳説日本史
- 高校日本史

渡邉 昭夫（わたなべ・あきお）
東京大学名誉教授
日本現代史・国際関係
- 現代の日本史